

## ケンブリッジ探訪記 etc

中西卓



前回のミーティングで披露した写真が、清水兄のコメントから 発明家による有名な作品“Corpus Clock”であることがわかりました。これを機に 17 年前の冬の旅を写真と後日に読んだ二つの読物でロンドンからの日帰り旅を思い出してみました。

何が目的でケンブリッジへ行ったのか。真冬の旅は宿と乗り物が空いているからだが、そんな話を YH 仲間の 岩城\*に話したら



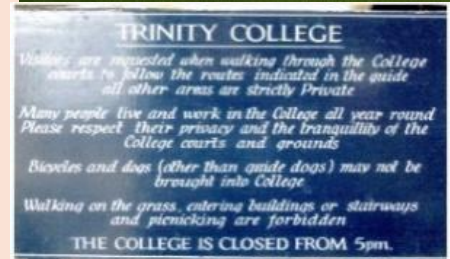
「ロンドンへ行くならケンブリッジでニュートンの林檎の樹を」と頼まれた たわいない動機だった。→右の写真は 上からトリニティカレッジの門前にあったその古木で謂れを記す立札がなく、門番に尋ねて「これが万有引力の・・・」と思うしかなかったが、彼には何よりの土産だった。キャンパスの入口は日本寺院の山門のイメージで気楽そうな番人がいるだけ。



2 番目の訪問者向けの注意書きから観光客の来訪をさほど歓迎していない様子。3 番目は正門を入った所からの情景、広い中庭が真冬でも濃い緑に覆われて 古色蒼然の校舎に歴史を感じた。4 番目はカレッジ街を南北に貫く通り、観光客が目立つだけで 学生や学者ばかりか地元住人も見かけなかったのは偶々だったのかも。



5 番目はカレッジの背後を流れるケム川で、白い橋はニュートンに因んで“数学者の橋”と呼ばれている。川遊びのボートが浮かぶ冬景色。





←前頁の左はケンブリッジ駅まで4 kmばかり歩いて目にした写真で、上から順に  
▼ケンブリッジ大学植物園の近景で 自然そのまま。 ▼大木に囲まれた遊園地、鉄棒やブランコの下が砂でなく落葉が厚く敷かれていた。 ▼3階建て連棟の住宅街だが、カレッジの教授らはキャンパス内に、フェローともなれば右のような前庭つきの住まいなのかと勝手な想像。街外れで留学生向けの英語塾を見かけた。 ▼ケンブリッジ駅の駅前、大学の街に相応しい落ち着いた佇まいで付近にパブらしきものがなく、教職員や学生らのコミュニケーションの場はどこに？  
ロンドン・キングスクロスから1時間ばかりの車窓を楽しんだ筈が田園風景の印象

だけ。湖水地方やスコットランドへ足を伸ばせばよかったのにと慌ただしい独り旅を後悔している。嬉しかったのはドーバー海峡を潜ってパリまでのユーロスターがシニア優遇で1stクラス、先頭車でパノラマ展望を楽しんだ。

英国は通貨が違い、YHホステラーが利用するユーロパスが圏外なのが不便な一方、国際列車が走らない長閑さがある。

EUから離脱するような国際社会で独自の動きは大陸と異なる環境によるのかもしれない。

〈 以下は私の僅かな見聞に[ケンブリッジのカレッジ・ライフ]\*\*から得た知識を加えたものです 〉

言うまでもなくケンブリッジ(以下Cam)はオックスフォード(以下Oxf)と並ぶ有名な大学だが、13世紀に守旧的なOxfから分派してCamヲ造り大学街として発展してきた。Camは人口10万の田園地帯にある静かな街だが、Oxfは近くに自動車メーカーの工場があったり

してやや都会的である。CAMBRIDGEの名の由来はThe River Camに架かる橋と言う意味で、街中を流れる川に幾つもの橋が架けられ、川が風景をつくり、人達の遊び場にもなっている。

図書館や植物園にケンブリッジ大学の表札があっても、街中では見当たらない。幾つものカレッジのキャンパスの中に大学課程があるからだ。Camはケム川を挟んでカレッジが点在しそれが街をつくっているの  
で、囲まれた区画に学部があるのとは感覚が違う。街路に沿って点在するチャペルとカレッジを歩くだけで長い歴史に浸る思いがする。

本書は「大学町に生きる人々」とサブタイトルがあり、著者の公私にわたる暮らしが手に取るように読める。英会話の苦労話もあって興味深いので 一読をおすすめ。

## — エトセトラ —

ここで 中世名残りのケンブリッジを奥にしまって、次に 私が歩いた内外の特徴あるキャンパスについて話します。

・UBC(カナダ・ブリティッシュ コロンビア大): ヴァンクーバー郊外 太平洋側の高台に広がるキャンパスは世界有数。多くの学部棟、博物館や温室など、立命館大のサテライトもあった。隣接する新渡戸稲造記念公園が狭いながらも和を湛える。狭い数十段を降りた先のヌーディストビーチは夏が過ぎて一抱えもある丸太が横たわっていた。学生会館では東南アジアの留学生が多いように思った。都心から 10 km 弱のトロリーバスは UBC のためにあるようで、マイカーを殆ど見なかった。UBC はスケールがただ大きいのではなく、四角の西と北が海、南に森が迫る自然の対比に興味を覚えた。

[11 年前に AIR CANADA から LCC 便の案内があって、即座にチケットを購入、往復便とも指定された 8 泊の旅。ヴァンクーバーまで行けば内陸のロッキーへ行きたいのにオフシーズンは鉄道ダイヤが疎らのため遠出を諦めて近辺へ。レンタサイクルでスタンレーパークなどへ、郊外電車も利用して広範囲に駆けまわった。街外れの YH は学生で満員、食事時は行列で混雑、同室仲間が入れ替わるので親しく話すこともなかった。従って、この旅でひときわ印象に残ったのが UBC だった。]

・フライブルクとストラスブール：ライン川を挟んで対峙する両市は世界の環境首都と言われるが、クラシックとモダンの好対照である。フライブルク（独）はシュヴァルツヴァルトからの冷たい水が街を潤し、狭い街路をトラムが縫う。都心にある大学が歩道に面したショウウィンドウでイベントを PR、キャンパス内の図書館に市民が出入りしてアットホームなイメージだった。（Hbf からトラムで 20 分のヴォーヴァンは戦後連合軍の駐屯地だったが、跡地をエコロジーのモデル団地に、太陽光/熱・雨水の利用、ごみ処理発電、集合駐車場、個人の土地所有を認めず 3 階以下の集合住宅に、トラムの軌道敷が芝など既成地でない街づくりだった。） ストラスブール（仏）はライン川と繋がる水路が街中にあり、新市街をスマートな LRT が走る。都心の LRT ターミナルは中空円形の屋根が目目を引く。パリへ TGV が直通する始発駅の正面が優雅なドームに包まれていた。大学は郊外の緑豊かなキャンパスだが外から眺めるだけだった。EU 議会も一目見たかったが。

[上は 21 年前、エコツアーの思い出。8 日間 仲間と連れ立ったあとの ジャーマンレイルパスで独り旅の記録

“駆け足で見てきたドイツ” を添付しますのでご覧いただければ幸いです]

・室蘭工大：入ってすぐに巨大なモニュメント。鉄錆色で断面が 1m 角、捻って折り曲げ 2m 強の高さ、何の象徴かと考えるまでもなく鉄というより鋼。否応なしに室蘭を象徴している。背後の白い校舎の耐震補強 “M” が力強い。西の MIT を意識しているようだ。キャンパスは北へ傾斜した道路の両側に建物が並び、部門とロケーションが違ってもカレッジらしい佇まいが小樽商大と共通していた。室蘭工大へは、IHI と護衛艦の共同設計したとき 同年輩の A 兄の出身校で 彼の人柄から一度訪ねてみたいと思っていたからだ。

〔北海道は西から道央へ、余市・積丹・ニセコを経て室蘭へ、更に苫小牧から帯広の次男宅へと10日余の旅だったが、苫小牧の北大研究林が紅葉真っ盛り、余市ではウイスキー博物館をゆっくり見学して「マッサン」のドラマをこの目で見てきた。〕

・東京工大（現 科学大）：大岡山キャンパスは逆三角形の緩い傾斜地にある。南の裏口から入って表の方へ通り抜けたが、

静かだった構内が表に近づくと、部活の学生らが賑やかだった。正門前に大岡山駅があって、名門大が駅前にとは意外。正門わきの記念館にノーベル賞の受賞を讃える懸垂幕があった。当時、北大や東大本郷の工学部が中層棟になりつつあったとき、大岡山は分野別に散在し木立もある静かな環境だった。裏口近くに変電所があったのは、大電力の研究設備があったのだろうか。OECで親しくしたM兄の出身校で、孫娘が在学していたこともあり、10余年前の東京二八会に参加した折、続く日に訪ねてみた次第。

<番外>兵庫県立三田祥雲館高校：三田ニュータウンの北端にあって、これが公立高校かと眼を疑った意外な佇まいである。道路を隔てた関西学院大・三田キャンパスと一体感の南欧風デザインが際立つ。教室から離れた体育館への回廊から池を見下ろす立体地形が高校には珍しい。ネットで検索すれば多数の写真と校名の由来などがわかる。10余年前に孫娘とその弟が自転車通学した学校だが、それは余分な話。

〔学生頃に武田尾辺りへハイキングしても更に北へは行かなかった田舎が様変わり、自然の地形を活かした深田公園とそれを跨ぐ県立博物館、キリンビール神戸工場へフラワータウン駅前からシャトルバスが通って六甲の御影石で磨かれたビールが飲めるのも嬉しい。一方 移住して32年目の岡山ネオポリスは自然環境はそこそこでも、社会環境が比べようもない。〕

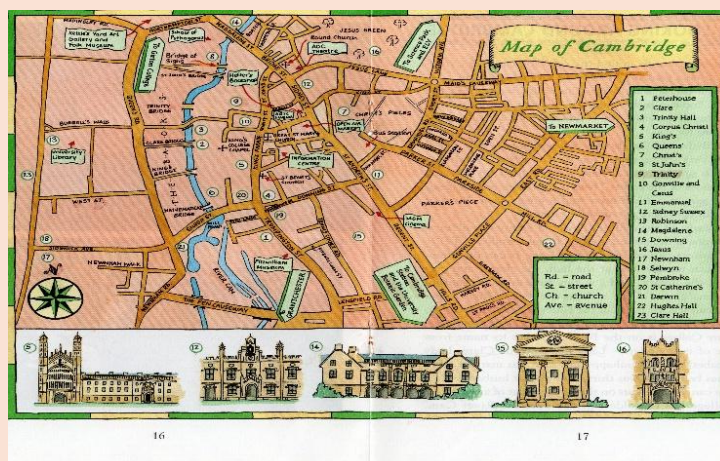
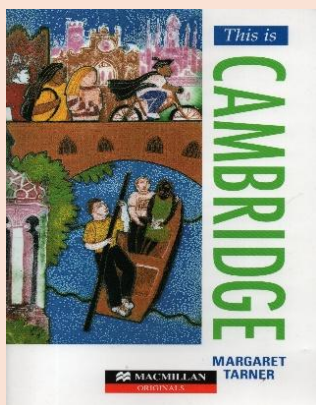
#### 資料・注釈

\*岩城 嵩：1937-2022 大阪府立大卒 MIT 留学 工博 三井造船玉野研究所長 津山工業高専 徳島文理大教授を歴任

岡山県エッセイストクラブ会員（会誌「地点」にユーモア溢れるエッセイ）

\*\*資料2 ケンブリッジのカレッジ・ライフ（安部悦生著 中公新書）

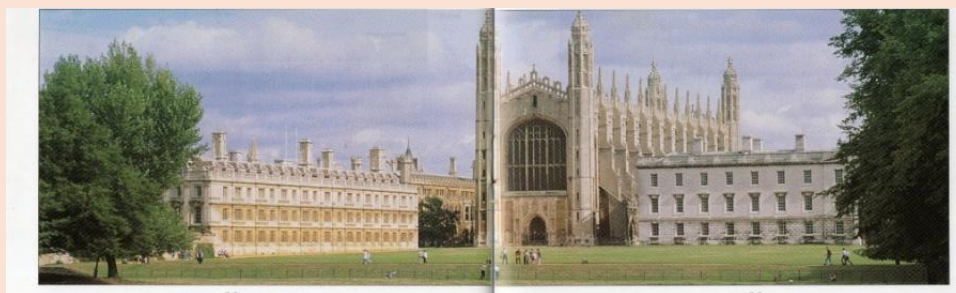
\*\*\* [This is CAMBRIDGE] A5版32頁の小冊子からコピー



1 : Cam 出身の有名人 他に 16 世紀のエラスムス 17 世紀の Cromwell から



2 : キングス カレッジ チャペル



{終}